

10/522364
PCT/JP03/09937

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

25 JAN 2005
05.08.03

REC'D 19 SEP 2003

WIPO PCT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日
Date of Application: 2002年 8月 6日

出願番号
Application Number: 特願2002-228234
[ST. 10/C]: [JP2002-228234]

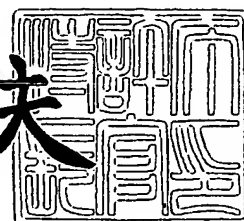
出願人
Applicant(s): 株式会社セフト研究所

PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2003年 9月 4日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



【書類名】 特許願

【整理番号】 SFTP0071

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 F24F 1/00

【発明者】

 【住所又は居所】 埼玉県さいたま市鹿手袋 6 丁目 1 9 番 6 号 株式会社セフト研究所内

 【氏名】 市ヶ谷 弘司

【特許出願人】

 【識別番号】 592171005

 【氏名又は名称】 株式会社セフト研究所

【代理人】

 【識別番号】 100091269

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 半田 昌男

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 007571

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

 【包括委任状番号】 9501330

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 除湿装置用風路

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 生物に接する側に設けられた透湿性部材と、前記透湿性部材を支えると共に空気が流通する空間を確保するための略扁平状のスペーサとを備えており、前記生物の表面から前記透湿性部材を介して前記空間内に透過した湿気を前記空間内を流通する空気によって運び出す除湿装置に用いられる除湿装置用風路であって、

前記スペーサは、略平面状の基部と複数の突出部とを有し、発泡プラスチックをカッティングすることにより又は発泡プラスチックを用いて成形することにより得られたものであり、且つ、前記透湿性部材と前記スペーサとの間に、前記生物から受ける力を分散させて前記スペーサに加えるための力分散手段を設けたことを特徴とする除湿装置用風路。

【請求項 2】 生物に接する側に設けられた透湿性部材と、前記透湿性部材を支えると共に空気が流通する空間を確保するための略扁平状のスペーサとを備えており、前記生物の表面から前記透湿性部材を介して前記空間内に透過した湿気を前記空間内を流通する空気によって運び出す除湿装置に用いられる除湿装置用風路であって、

前記スペーサは、略平面状の基部と複数の突出部とを有し、成形法を用いてプラスチックフィルムに複数の凹部を形成した後に前記各凹部内に耐圧物質を詰め込むことにより得られたものであることを特徴とする除湿装置用風路。

【請求項 3】 生物に接する側に設けられた透湿性部材と、前記透湿性部材を支えると共に空気が流通する空間を確保するための略扁平状のスペーサとを備えており、前記生物の表面から前記透湿性部材を介して前記空間内に透過した湿気を前記空間内を流通する空気によって運び出す除湿装置に用いられる除湿装置用風路であって、

前記スペーサは、略平面状の基部と複数の突出部とを有し、前記複数の突出部を前記基部上に接合することにより得られたものであることを特徴とする除湿装置用風路。

【請求項 4】 生物に接する側に設けられた透湿性部材と、前記透湿性部材を支えると共に空気が流通する空間を確保するための略扁平状のスペーサとを備えており、前記生物の表面から前記透湿性部材を介して前記空間内に透過した湿気を前記空間内を流通する空気によって運び出す除湿装置に用いられる除湿装置用風路であって、

前記スペーサは、メッシュ状部材を用いて成形することにより得られたものであることを特徴とする除湿装置用風路。

【請求項 5】 人体又は下着と服地部との間に空気が流通する空間を確保するための略扁平状のスペーサを備えており、前記人体の表面から前記空間内に入り込んだ湿気を前記空間内を流通する空気によって運び出す除湿衣服に用いられる除湿衣服用風路であって、

前記スペーサは、メッシュ状部材を用いて成形することにより得られたものであることを特徴とする除湿衣服用風路。

【請求項 6】 前記透湿性部材と前記スペーサとの間に、前記生物から受ける力を分散させて前記スペーサに加えるための力分散手段を設けたことを特徴とする請求項 2、3 又は 4 記載の除湿装置用風路。

【請求項 7】 前記力分散手段は前記透湿性部材と一体的に形成されていることを特徴とする請求項 1 又は 6 記載の除湿装置用風路。

【請求項 8】 前記スペーサと前記透湿性部材との間にメッシュ状部材を設け、当該メッシュ状部材を弛まないようにして前記複数の突出部に接合したことを特徴とする請求項 2 又は 3 記載の除湿装置用風路。

【請求項 9】 前記力分散手段を弛まないようにして前記複数の突出部に接合したことを特徴とする請求項 1 記載の除湿装置用風路。

【請求項 10】 前記透湿性部材を弛まないようにして前記複数の突出部に接合したことを特徴とする請求項 2 又は 3 記載の除湿装置用風路。

【請求項 11】 前記各突出部は、前記透湿性部材に対向する面の面積が大きくとも前記基部に接する面の面積の 50% であるように形成されていることを特徴とする請求項 1、2 又は 3 記載の除湿装置用風路。

【請求項 12】 生物に接する側に設けられた透湿性マットと、前記透湿性

マットを支えると共に空気が流通する空間を確保するための略扁平状のスペーサとを備えており、前記生物の表面から前記透湿性マットを介して前記空間内に透過した湿気を前記空間内を流通する空気によって運び出す除湿装置に用いられる除湿装置用風路であって、

前記スペーサは、略平面状の基部と、前記基部上に互いに平行になるように形成された複数のレール状の突出部とを有し、押出成形することにより得られたものであり、且つ、前記スペーサと前記透湿性マットとの間に、前記生物から受ける力を分散させて前記スペーサに加えるための力分散手段を設けたことを特徴とする除湿装置用風路。

【請求項 13】 生物に接する側に設けられた透湿性マットと、前記透湿性マットを支えると共に空気が流通する空間を確保するための略扁平状のスペーサとを備えており、前記生物の表面から前記透湿性マットを介して前記空間内に透過した湿気を前記空間内を流通する空気によって運び出す除湿装置に用いられる除湿装置用風路であって、

前記透湿性マットは断熱性を有し、且つ、前記透湿性マットの空気含有量は前記スペーサの厚さ方向に略直交する平面における面積 1 cm^2 当たり少なくとも 0.05 cc であることを特徴とする除湿装置用風路。

【請求項 14】 前記スペーサと前記透湿性マットとの間に、前記生物から受ける力を分散させて前記スペーサに加えるための力分散手段を設けたことを特徴とする請求項 13 記載の除湿装置用風路

【請求項 15】 前記スペーサの下にクッション材を設けたことを特徴とする請求項 13 又は 14 記載の除湿装置用風路。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、人体等の表面近傍に外部の空気を流通させることにより湿気を除去する除湿座布団、除湿マット、除湿敷布団、除湿衣服等の除湿装置に用いられる除湿装置用風路に関する。

【0002】

【従来の技術】

以前から、夏などの暑い時期には、籐製の座布団がよく用いられている。かかる籐製の座布団は籐を編んで作られたものであり、その編み目を粗くしている。このため、その座布団の内部には空気が自然に流通しやすくなっている。かかる座布団に座ると、臀部から発散された水分は座布団の内部に透過し、座布団の内部を流れる空気によって外部に運び出される。これにより、臀部の湿気を取り除くことができる。かかる籐製の座布団は、人の臀部を支えると共にその内部に空気を流通させる風路の役割を果たしている。したがって、一般に、このような風路を用い、その風路内に空気を強制的に流通させることにより、除湿装置を実現することができる。

【0 0 0 3】**【発明が解決しようとする課題】**

ところで、上述したような除湿装置では、その除湿装置用風路としてどのような構造のものを用いるかが除湿効果に大きな影響を与える。また、実用的には、除湿装置用風路は量産性に優れたものであることが望ましい。

【0 0 0 4】

本発明は上記事情に基づいてなされたものであり、十分な除湿効果を得ることができると共に量産性に優れた除湿装置用風路を提供することを目的とするものである。

【0 0 0 5】**【課題を解決するための手段】**

上記の目的を達成するための請求項 1 記載の発明は、生物に接する側に設けられた透湿性部材と、前記透湿性部材を支えると共に空気が流通する空間を確保するための略扁平状のスペーサとを備えており、前記生物の表面から前記透湿性部材を介して前記空間内に透過した湿気を前記空間内を流通する空気によって運び出す除湿装置に用いられる除湿装置用風路であって、前記スペーサは、略平面状の基部と複数の突出部とを有し、発泡プラスチックをカッティングすることにより又は発泡プラスチックを用いて成形することにより得られたものであり、且つ、前記透湿性部材と前記スペーサとの間に、前記生物から受ける力を分散させて

前記スペーサに加えるための力分散手段を設けたことを特徴とするものである。

【0006】

上記の目的を達成するための請求項2記載の発明は、生物に接する側に設けられた透湿性部材と、前記透湿性部材を支えると共に空気が流通する空間を確保するための略扁平状のスペーサとを備えており、前記生物の表面から前記透湿性部材を介して前記空間内に透過した湿気を前記空間内を流通する空気によって運び出す除湿装置に用いられる除湿装置用風路であって、前記スペーサは、略平面状の基部と複数の突出部とを有し、成形法を用いてプラスチックフィルムに複数の凹部を形成した後に前記各凹部内に耐圧物質を詰め込むことにより得られたものであることを特徴とするものである。

【0007】

上記の目的を達成するための請求項3記載の発明は、生物に接する側に設けられた透湿性部材と、前記透湿性部材を支えると共に空気が流通する空間を確保するための略扁平状のスペーサとを備えており、前記生物の表面から前記透湿性部材を介して前記空間内に透過した湿気を前記空間内を流通する空気によって運び出す除湿装置に用いられる除湿装置用風路であって、前記スペーサは、略平面状の基部と複数の突出部とを有し、前記複数の突出部を前記基部上に接合することにより得られたものであることを特徴とするものである。

【0008】

上記の目的を達成するための請求項4記載の発明は、生物に接する側に設けられた透湿性部材と、前記透湿性部材を支えると共に空気が流通する空間を確保するための略扁平状のスペーサとを備えており、前記生物の表面から前記透湿性部材を介して前記空間内に透過した湿気を前記空間内を流通する空気によって運び出す除湿装置に用いられる除湿装置用風路であって、前記スペーサは、メッシュ状部材を用いて成形することにより得られたものであることを特徴とするものである。

【0009】

上記の目的を達成するための請求項5記載の発明は、人体又は下着と服地部との間に空気が流通する空間を確保するための略扁平状のスペーサを備えており、

前記人体の表面から前記空間内に入り込んだ湿気を前記空間内を流通する空気によって運び出す除湿衣服に用いられる除湿衣服用風路であって、前記スペーサは、メッシュ状部材を用いて成形することにより得られたものであることを特徴とするものである。

【0010】

上記の目的を達成するための請求項12記載の発明は、生物に接する側に設けられた透湿性マットと、前記透湿性マットを支えると共に空気が流通する空間を確保するための略扁平状のスペーサとを備えており、前記生物の表面から前記透湿性マットを介して前記空間内に透過した湿気を前記空間内を流通する空気によって運び出す除湿装置に用いられる除湿装置用風路であって、前記スペーサは、略平面状の基部と、前記基部上に互いに平行になるように形成された複数のレール状の突出部とを有し、押出成形することにより得られたものであり、且つ、前記スペーサと前記透湿性マットとの間に、前記生物から受ける力を分散させて前記スペーサに加えるための力分散手段を設けたことを特徴とするものである。

【0011】

上記の目的を達成するための請求項13記載の発明は、生物に接する側に設けられた透湿性マットと、前記透湿性マットを支えると共に空気が流通する空間を確保するための略扁平状のスペーサとを備えており、前記生物の表面から前記透湿性マットを介して前記空間内に透過した湿気を前記空間内を流通する空気によって運び出す除湿装置に用いられる除湿装置用風路であって、前記透湿性マットは断熱性を有し、且つ、前記透湿性マットの空気含有量は前記スペーサの厚さ方向に略直交する平面における面積 1 cm^2 当たり少なくとも 0.05 cc であることを特徴とするものである。

【0012】

【発明の実施の形態】

以下に本発明の第一実施形態に係る除湿装置用風路について説明する。図1(a)は本発明の第一実施形態に係る除湿装置用風路が適用された除湿装置である除湿座布団の概略平面図、図1(b)はその除湿座布団のA-A矢視方向概略断面図、図2(a)は第一実施形態に係る除湿装置用風路に用いられるスペーサの

概略平面図、図 2 (b) はそのスぺーサの概略側面図、図 2 (c) はそのスぺーサの B-B 矢視方向概略断面図、図 3 はそのスぺーサの外形を説明するための図である。

【0013】

図 1 に示す除湿座布団は、人が座ったときに臀部の表面から出る湿気を除去する除湿装置として用いられるものである。第一実施形態では、この除湿座布団を、例えば椅子の上に載置して使用する場合を考える。もちろん、ベンチやソファ一等の上に載せて使用することもできる。

【0014】

この除湿座布団は、図 1 に示すように、略正形状の除湿装置用風路 10 と、接続流通路 41 と、空気入口部 42 と、空気出口部 43 と、送風手段としての DC ファン 44 と、電池 45 と、メインスイッチ 51 と、圧力スイッチ 52 とを備える。

【0015】

除湿装置用風路 10 は、図 1 に示すように、略扁平状のスぺーサ 11 と、透湿性シート（透湿性部材）21 とを有する。図 1 (b) において、除湿装置用風路 10 の右側面は、外部の空気を当該風路 10 内に取り入れるための空気入口部 42 である。

【0016】

スぺーサ 11 は、透湿性シート 21 を支えると共に、空気が流通する空間を確保するためのものである。このスぺーサ 11 は、図 1 及び図 2 に示すように、略平面状の基部 15 と、複数の細長い突出部 16 とを有する。各突出部 16 は、その長手方向が所定の方角を向くように、規則的に配置されている。これらの突出部 16 は、略平面状の基部 15 を介して物理的に連続して連なっている。隣り合う突出部 16 の間の空間が空気の流通する空間となる。

【0017】

かかるスぺーサ 11 は、長いレール状の突出部を複数個に分断したものと考えることができるので、「分断レール型」と称される。これに対し、複数の長いレール状の突出部を互いに平行に配置したスぺーサは、「連続レール型」と称され

る。例えば、図10に示すスペーサが連続レール型である。第一実施形態では、分断レール型のスペーサ11の代わりに、連続レール型のスペーサを用いてもよい。但し、連続レール型のスペーサは、その材質によっては、突出部の長手方向に直交する方向に沿っての柔軟性に乏しい。分断レール型のスペーサ11は、この点の改善が図られており、しかも、突出部16の長手方向のみならず、当該長手方向に直交する方向に沿って空気を流通させることができるという利点がある。

【0018】

スペーサ11の材料としては、発泡プラスチック、例えばウレタンが用いられる。このため、かかるスペーサ11は、軽量で、しかも柔軟性に優れているという特徴がある。

【0019】

このスペーサ11は次に示すような方法により製造することができる。第一の方法は、発泡プラスチックをカッティングする方法である。すなわち、基部15の厚さと突出部16の高さとを加算して得られる厚さを有する発泡プラスチックを用意する。そして、かかる発泡プラスチックを所定形状にカッティングすることにより、スペーサ11を容易に製造することができる。第二の方法は、発泡プラスチックを用いて押圧熱成形する方法である。すなわち、略平面状の発泡プラスチックを二つの金型の間に配置する。そして、熱を加えて、二つの金型を押圧することにより、スペーサ11を容易に製造することができる。尚、スペーサ11として連続レール型のものを用いる場合には、発泡プラスチックを用いて押出成形することにより、スペーサ11を容易に製造することもできる。

【0020】

第一実施形態では、各突出部16を、図2(c)に示すように、その長手方向に垂直な平面で切断したときの形状が略テーパー状となるように形成している。正確に言うと、各突出部16を、透湿性シート21に対向する面の面積が大きくとも基部15に接する面の面積の50%であるように形成している。このような突出部16を有するスペーサ11を用いることは、次の点で理にかなっている。すなわち、第一に、突出部16は構造的に上側よりも下側の方が幅広であるので、

突出部 16 の強度を高めることができる。第二に、突出部 16 と透湿性シート 21 との接触面積を小さくすることができる。もし当該接触面積を大きくしたとすると、その接触する部分にどうしても湿気がこもってしまうが、第一実施形態では、そのようなことはない。第三に、スペーサ 11 内の上部の空間が下部の空間に比べて大きいので、透湿性シート 21 の近くを流れる空気の量を多くすることができる。これにより、除湿効果を高めることができる。また、突出部 16 の長手方向における断面形状は、略テーパ状に限られない。例えば、図 3 に示すように、略波状としてもよい。

【0021】

透湿性シート 21 は、図 1 (a) においてスペーサ 11 の表と裏の面及び上下の側面を包み込んでいる。人は、スペーサ 11 の上面に設けられた透湿性シート 21 の上に座ることになる。但し、スペーサ 11 の右側面は、空気を吸い込むことができるように開放されている。この開放されている部分が空気入口部 42 である。また、スペーサ 11 の左側面は、接続流通路 41 との連結面となるので、当然に開放されている。

【0022】

透湿性シート 21 の素材としては、水蒸気を容易に透過するものであれば何でもよく、例えば高密度布や一般の布を用いることができる。ここで、高密度布とは、1 cm 当たり 300 本程度の糸を使って織った布のことである。また、透湿性シート 21 としては、熱抵抗が小さいものを用いるのが望ましい。これは次の理由による。すなわち、除湿座布団では、透湿性シート 21 に腰掛けたときに、臀部から発散された水分が透湿性シート 21 を透過し、除湿装置用風路 10 内を流れる空気によって運び出されることにより、除湿効果が得られる。このとき、体温よりも低い外部の空気を除湿装置用風路 10 内に流すことにより、臀部の表面近傍において大きな温度勾配を実現することができる。この大きな温度勾配によって、体表から放出される熱の量を多くすることができるので、当該除湿座布団では、除湿効果に加えて、臀部を冷却するという副次的な効果も期待できる。したがって、除湿だけでなく冷却をも目的とする除湿座布団にあっては、透湿性シート 21 の熱抵抗を小さくすることにより、熱を臀部から除湿装置用風路 10

内に伝わりやすくして、上記の冷却効果を容易に得ることができる。

【0023】

尚、除湿装置用風路10を除湿だけを目的とする除湿座布団に適用する場合は、除湿及び冷却を目的とする除湿座布団に適用する場合に比べて、除湿装置用風路10内を流通する空気量は少なくともよい。このため、かかる場合には、除湿装置用風路10内を流通する空気がスペーサ11から受ける抵抗は若干高くても何ら問題はない。

【0024】

接続流通路41は、図1に示すように、除湿装置用風路10と連結された空間であって、除湿装置用風路10の一の側面に取り付けられている。接続流通路41の略中央下部には、接続流通路41内の空気を外部に取り出すための空気出口部43が設けられている。空気出口部43と接続流通路41との境界部には、DCファン44が取り付けられている。このDCファン44は、除湿装置用風路10及び接続流通路41の内部に空気の流れを強制的に生じさせるものである。DCファン44が駆動すると、外部の空気は空気入口部42から除湿装置用風路10内に流入し、除湿装置用風路10を通過して接続流通路41に達する。そして、その空気は、DCファン44により、空気出口部43から外部に送出される。

【0025】

電池45は、DCファン44の駆動電源である。かかる電池45は、普通の乾電池でもよいが、除湿座布団を使用しないときに商用電源で充電しておくことができるように、充電可能な二次電池とするのが望ましい。

【0026】

除湿装置用風路10の略中央上部には、圧力スイッチ52が設けられている。メインスイッチ51と圧力スイッチ52は直列に接続されており、両方がオンになったときに電池45から電力がDCファン44に供給される。

【0027】

除湿座布団を使用する場合は、接続流通路41が椅子の後部（背もたれがある側）にくるように除湿座布団を載置する。通常は、空気出口部43が下向きになるように除湿座布団を置くが、椅子の構造によっては、裏返しにして使ってもよ

い。この状態で人が除湿座布団に座ると、圧力スイッチ 5 2 が着座を感知してオンになる。さらに、メインスイッチ 5 1 がオンにされていると、D C ファン 4 4 は、空気入口部 4 2 から外部の空気を吸い込む方向に回転する。この吸い込まれた空気は、除湿装置用風路 1 0 の内部を流れた後、D C ファン 4 4 によって空気出口部 4 3 から外部に排出される。

【 0 0 2 8 】

かかる除湿座布団では、臀部の表面から発散される水分は透湿性シート 2 1 を透過して除湿装置用風路 1 0 内に入り込む。そして、この入り込んだ湿気は、除湿装置用風路 1 0 内を流通する空気によって外部に運び出される。このため、人は、除湿座布団に座っていても、臀部から発散される汗により臀部が蒸れることはなく、快適に過ごすことができる。

【 0 0 2 9 】

第一実施形態の除湿装置用風路では、スペーサとして、略平面状の基部と複数の突出部とを有し、発泡プラスチックをカッティングすることにより又は発泡プラスチックを用いて成形することにより製造されたものを用いている。このため、かかる除湿装置用風路は、軽量であり、柔軟性がある。また、スペーサを容易に製造することができるので、この除湿装置用風路は量産性に優れている。したがって、第一実施形態の除湿装置用風路は、人体の表面から透湿性シートを介してスペーサ内に透過した湿気をスペーサ内を流通する空気によって運び出す各種の除湿装置に用いるのに好適である。

【 0 0 3 0 】

次に、本発明の第二実施形態について図面を参照して説明する。図 4 (a) は本発明の第二実施形態に係る除湿装置用風路が適用された除湿装置である除湿マットの概略平面図、図 4 (b) はその除湿マットの C - C 矢視方向概略断面図、図 5 は第二実施形態に係る除湿装置用風路に用いられるスペーサの例を示す図、図 6 は第二実施形態に係る除湿装置用風路に用いられる透湿性シート及び力分散手段の一例を示す図である。尚、図 5 において第二実施形態において、第一実施形態のものと同一の機能を有するものには、同一の符号を付すことにより、その詳細な説明を省略する。

【0031】

図4に示す除湿マットは、人が寝転んだときに体表から出る湿気を除去する除湿装置として用いられる。第二実施形態では、この除湿マットを、ベッド用として使用する場合を考える。尚、かかる除湿マットは、ソファや床の上に置いて使用することもできる。

【0032】

この除湿マットは、図4に示すように、略長形状の除湿装置用風路10aと、接続流通路41と、空気入口部42と、空気出口部43と、送風手段としてのDCファン44と、メインスイッチ51と、風量調整用つまみ53と、タイマー54と、プラグ61とを備える。また、除湿装置用風路10aは、略扁平状のスペーサ11aと、透湿性シート（透湿性部材）21と、力分散手段22とを有する。

【0033】

スペーサ11aは、透湿性シート21を支えると共に、空気が流通する空間を確保するためのものである。このスペーサ11aの平面図及び側面図は、第一実施形態において図2に示したものと略同様である。このスペーサ11aは、略平面状の基部15aと、複数の細長い突出部16aとを有する。各突出部16aは、その長手方向が所定の方向を向くように、規則的に配置されている。これらの突出部16aは、略平面状の基部15aを介して物理的に連続して連なっている。隣り合う突出部16aの間の空間が空気の流通する空間となる。このように、かかるスペーサ11aも、第一実施形態におけるスペーサと同様に、分断レール型のものである。また、第二実施形態でも第一実施形態と同様に、各突出部16aを、その長手方向に垂直な平面で切断したときの形状が略テーパー状又は略波状となるように形成している。

【0034】

第二実施形態では、基部15aの材料として、プラスチックフィルムを用いている。具体的には、厚さ数十ミクロンのポリエチレンフィルムが用いられる。一般には、この基部15aの厚さは1mm以下であることが望ましい。また、突出部16aの内部には、外部からの圧力に対抗することができる耐圧物質が詰め込

まれている。この耐压物質としては、基部 15 a の材料に比べて比重が小さい材料が用いられる。例えば、発泡プラスチックが用いられる。このため、かかるスペーサ 11 a は、軽量且つ柔軟性があり、しかも安価であるという特徴がある。

【0035】

このスペーサ 11 a は、次のようにして製造することができる。まず、突出部 16 a に対応した凹部を有する金型上にプラスチックフィルムを載置する。そして、金型に熱を加えて、プラスチックフィルムを真空成形することにより、プラスチックフィルムに複数の凹部を形成する。この凹部が後に突出部 16 a となる。次に、例えば接着性のある耐压物質を、プラスチックフィルムの凹部内に詰め込む。このようにして、スペーサ 11 a を容易に製造することができる。かかる方法により製造されたスペーサ 11 a を図 5 (a) に示す。ここで、図 5 は、スペーサ 11 a を突出部 16 a の長手方向に垂直な平面で切断したときの当該スペーサ 11 a の一部の概略断面図である。また、接着性のある耐压物質の代わりに、小さな粒子状の耐压物質を用いることもできる。この場合は、粒子状の耐压物質を、プラスチックフィルムの凹部内に詰め込んだ後、その粒子状の耐压物質が飛び出ないように、そのプラスチックフィルムの裏面に別のプラスチックフィルムをラミネートする。かかる方法により製造されたスペーサ 11 a を図 5 (b) に示す。尚、金型をロール状に作製し、それを回転させながら成形することにより、スペーサ 11 a を連続的に製造することも可能である。

【0036】

スペーサ 11 a の突出部 16 a の上には、力分散手段 22 と透湿性シート 21 がこの順で設けられている。透湿性シート 21 は、第一実施形態のものと略同様であり、図 4 (a) においてスペーサ 11 a の表の面及び上下の側面を包み込んでいる。力分散手段 22 は、人が透湿性シート 21 上に寝転がったときに、人から受ける力を分散させてスペーサ 11 a に加えるためのものである。力分散手段 22 としては、例えばメッシュ状の素材が用いられる。一般に、力分散手段 22 は必ずしもメッシュである必要はなく、柔軟性があり、熱抵抗が小さく、しかも透湿性に優れたものであれば力分散手段 22 としてどのようなものでも用いることができる。

【0037】

また、この力分散手段22を用いることにより、スペーサ11aの突出部16aが体にあたるゴツゴツ感を抑えたと共に、透湿性シート21の一部がスペーサ11aの突出部16aの間に入り込んでしまい、空気の流通を阻害するのを防止することができる。尚、上記第一実施形態の除湿装置用風路にも、力分散手段を設けることが望ましい。

【0038】

第二実施形態では、かかる力分散手段22を透湿性シート21と一体的に形成している。透湿性シート21と力分散手段22とを一体化するには、例えば、力分散手段22を透湿性シート21の裏面にラミネートすればよい。あるいは、透湿性シート21の裏面の生地を作る際に、太い構造体用の糸を当該生地縦及び／又は横方向に沿って一定間隔で編み込むようにすればよい。ここで、構造体用の糸をメッシュ状に編み込むか、一方向に沿って一定間隔で編み込むかは、スペーサ11aの突出部16aの形状に応じて決定すればよい。例えば、突出部16aが細長いものであれば、図6に示すように、透湿性シート21の裏面に構造体用の糸を一方向に沿って一定間隔で編み込む。そして、その編み込んだ方向と突出部16aの長手方向とが直交するように、透湿性シート21をスペーサ11a上に載置する。このような方法を用いることにより、力分散手段22と透湿性シート21とを容易に一体化することができる。

【0039】

接続流通路41、空気入口部42、空気出口部43、DCファン44及びメインスイッチ51は、第一実施形態のものとほぼ同様である。

【0040】

風量調整用つまみ53は、DCファン44の回転数を変化させることにより、除湿装置用風路10a内を流通する空気量を調整するためのものである。タイマー54は、DCファン44の動作を自動的に停止させる時間を設定するためのものである。プラグ61は、商用電源に接続するためのものである。

【0041】

除湿マットを使用する場合、通常は、空気出口部43が下向きになるように除

湿マットをベッドの上に置く。メインスイッチ 5 1 がオンにされると、D C ファン 4 4 は、空気入口部 4 2 から外部の空気を吸い込む方向に回転する。この吸い込まれた空気は、除湿装置用風路 1 0 a の内部を流れた後、D C ファン 4 4 によって空気出口部 4 3 から外部に排出される。

【 0 0 4 2 】

かかる除湿マットでは、人体の表面から発散される水分は透湿性シート 2 1 を透過して除湿装置用風路 1 0 a 内に入り込む。そして、この入り込んだ湿気は、除湿装置用風路 1 0 a 内を流通する空気によって外部に運び出される。このため、人は、除湿マット上に横たわって寝ていても、人体から発散される汗により体が汗ばむことはなく、快適に過ごすことができる。

【 0 0 4 3 】

第二実施形態の除湿装置用風路では、スペーサとして、略平面状の基部と複数の突出部とを有し、成形法を用いてプラスチックフィルムに複数の凹部を形成した後、各凹部内に耐圧物質を詰め込むことにより製造されたものを用いている。このとき、耐圧物質として発泡プラスチックを用いることにより、かかる除湿装置用風路の軽量化を図り、柔軟性を高めることができる。また、この除湿装置用風路は、大量生産するのに適しており、しかも、コストパフォーマンスにとっても優れている。コストの問題は、特にサイズの大きな除湿装置用風路を形成する場合に重要となる。したがって、第二実施形態の除湿装置用風路は、サイズの大きな風路を形成しなければならないような、例えばマット、敷布団、ベッド等の除湿装置に用いるのに好適である。尚、かかる除湿装置用風路におけるスペーサは、重い荷重にも耐えることができる。このため、人が当該風路を適用した除湿装置の上に立ったときでも、当該風路は壊れてしまうことはない。

【 0 0 4 4 】

また、第二実施形態の除湿装置用風路では、力分散手段と透湿性シートとを一体的に形成したことにより、除湿装置用風路の製造・組立が容易になる。

【 0 0 4 5 】

尚、上記の第二実施形態において、スペーサ 1 1 a の基部 1 5 a には、必要に応じて複数の孔を設けるようにしてもよい。D C ファン 4 4 によりスペーサ 1 1

a内に空気を強制的に流通させている場合には何ら問題はないが、DCファン44の駆動を停止している場合等に、スペーサ11aの内部は湿気を帯びてしまうことがある。孔を設けることにより、かかる場合に、その湿気を外部に逃がすことができる。

【0046】

また、上記の第二実施形態では、スペーサとして、成形法を用いてプラスチックフィルムに複数の凹部を形成した後に各凹部内に耐圧物質を詰め込むことにより製造されたものを用いた場合について説明したが、これ以外にもさまざまなスペーサを用いることができる。図7は第二実施形態に係る除湿装置用風路に用いられる他のスペーサを説明するための図である。

【0047】

図7に示すスペーサ11bは、略平面状の基部15bと、複数の細長い突出部16bとを有し、複数の突出部16bを基部15b上に接合することにより得られたものである。このスペーサ11bの平面図及び側面図は、第一実施形態において図2に示したものと略同様である。また、図7はスペーサ11bを突出部16bの長手方向に垂直な平面で切断したときの当該スペーサ11bの一部の概略断面図である。

【0048】

基部15bの材料としては、プラスチックフィルムの他に、布やメッシュ状素材を用いることができる。また、突出部16bの材料には、基部15bの材料と別の物質であって、外部からの圧力に対抗することができる耐圧物質を用いる。すなわち、耐圧物質としては、基部15bの材料に比べて比重が小さいもの、例えば発泡プラスチックが用いられる。このため、かかるスペーサ11bは、図5に示すスペーサと同様に、軽量で且つ柔軟性があり、しかも安価であるという特徴がある。

【0049】

このスペーサ11bは、次のようにして製造することができる。まず、突出部16bに対応した凹部を有する金型を加熱し、その凹部内に発泡プラスチックを流し込む。そして、ヘラ等を用いて、凹部以外のところに付着した発泡プラスチ

ックを取り除く。次に、その金型上に略平面状の基部 1 5 b を載置して、凹部に入っている発泡プラスチックを基部 1 5 b に接着する。ここで、基部 1 5 b としてプラスチックフィルムを用いた場合、発泡プラスチックはプラスチックフィルムと接着するので、接着剤は不要である。また、基部 1 5 b として布やメッシュ状素材を用いた場合は、流動化した発泡プラスチックが布等にしみ込み、これにより、基部 1 5 b と突出部 1 6 b を一体化できる。このようにして、スペーサ 1 1 b を容易に製造することができる。尚、金型をロール状に作製し、それを回転させながら基部 1 5 b と発泡プラスチックを接着することにより、スペーサ 1 1 b を連続的に製造することもできる。

【 0 0 5 0 】

かかるスペーサ 1 1 b を用いて製造された除湿装置用風路は、上記の第二実施形態と同様の効果を奏する。

【 0 0 5 1 】

また、別のスペーサについて説明する。図 8 (a) は第二実施形態に係る除湿装置用風路に用いられる他のスペーサの概略平面図、図 8 (b) はそのスペーサの概略側面図である。

【 0 0 5 2 】

図 8 に示すスペーサ 1 1 c は、略平面状の基部 1 5 c と、複数の突出部 1 6 c とを有する。各突出部 1 6 c は、その長手方向が所定の方角を向くように規則的に配置されている。また、スペーサ 1 1 c はメッシュ状部材を用いて成形することにより得られる。このため、かかるスペーサ 1 1 c は、軽量且つ柔軟性がある。しかも、スペーサ 1 1 c 内を流れる空気が突出部 1 6 c から受ける抵抗は小さく、その空気は突出部 1 6 c をもスムーズに流通することができる。したがって、メッシュ状部材の網目の大きさがあまり小さくなければ、突出部 1 6 c の形成密度を大きくすることができる。これは、他のスペーサにはない、当該スペーサ 1 1 c の特徴点である。

【 0 0 5 3 】

スペーサ 1 1 c の材料であるメッシュ状部材としては、例えばプラスチックを用いることができる。この場合、スペーサ 1 1 c は押圧熱成形により製造するこ

とができる。すなわち、まず、メッシュ状部材を二つの金型の間に配置する。そして、熱を加えて、二つの金型を押圧することにより、スペーサ 11c を容易に製造することができる。

【0054】

かかるスペーサ 11c を用いて製造された除湿装置用風路は、上記の第二実施形態と同様の効果を奏する。

【0055】

尚、かかるスペーサ 11c を有する除湿装置用風路では、スペーサ 11c の下側に布等を設けていないと、そこからスペーサ 11c 内を流通する空気が外部に漏れてしまうのではないかと思われるかもしれない。しかしながら、通常、除湿装置用風路は、その下側が床等の上に置かれるので、スペーサ 11c の下側を布等覆わなくても、何ら問題はない。

【0056】

上記の第二実施形態では、力分散手段と透湿性シートとを一体的に形成した場合について説明したが、必ずしも力分散手段と透湿性シートとを一体的に形成する必要はない。また、力分散手段としてメッシュ状部材を用い、そのメッシュ状部材を弛まないようにしてスペーサの突出部に接合するようにしてもよい。この場合、メッシュ状部材の材料としては、例えば、網戸等に使われる細くて柔らかいものが用いられる。このメッシュ状部材は、接着剤等を用いて、弛まないようにスペーサの突出部に接合される。これにより、メッシュ状部材は、その上に物を載せたときであっても、その形状を保つことができるので、力分散手段としての役割を果たすことができる。

【0057】

また、透湿性シートに力分散手段としての役割をもたせるようにしてもよい。すなわち、独立の力分散手段を設けずに、例えば、透湿性シートを弛まないようにしてスペーサの突出部に接合するようにしてもよい。この場合、透湿性シートは、接着剤等を用いて突出部に接合される。これにより、透湿性シートは、その上に物を載せたときであっても、その形状を保つことができるので、力分散手段としての役割を果たすことができる。

【0058】

次に、本発明の第三実施形態について図面を参照して説明する。図9（a）は本発明の第三実施形態に係る除湿装置用風路が適用された除湿装置である除湿敷布団の概略平面図、図9（b）はその除湿敷布団のD-D矢視方向概略断面図、図10（a）は第三実施形態に係る除湿装置用風路に用いられるスペーサの概略平面図、図10（b）はそのスペーサの概略側面図である。尚、第三実施形態において、第一及び第二の実施形態のものと同一の機能を有するものには、同一の符号を付すことにより、その詳細な説明を省略する。

【0059】

図9に示す除湿敷布団は、人が寝転んだときに体表から出る湿気を除去する除湿装置として用いられる。第三実施形態では、かかる除湿敷布団を、除湿だけを目的として使用する場合について考える。すなわち、人体を冷却することを目的として使用するわけではない。

【0060】

この除湿敷布団は、図9に示すように、略長形状の除湿装置用風路10dと、接続流通路41と、空気入口部42と、空気出口部43と、送風手段としてのDCファン44と、コントロール部50と、プラグ61と、コード62とを備える。

【0061】

除湿装置用風路10dは、図9に示すように、略扁平状のスペーサ11dと、力分散手段22dと、透湿性マット（透湿性部材）23とを有する。図9（a）において、除湿装置用風路11dの右の側面は、外部の空気を当該風路11d内の空気を外部に送出するための空気出口部43である。

【0062】

スペーサ11dは、透湿性マット23を支えると共に、空気が流通する空間を確保するためのものである。このスペーサ11dは、連続レール型のものであり、図9及び図10に示すように、略平面状の基部15dと、複数のレール状の突出部16dとを有する。複数のレール状の突出部16dは、その長手方向が略平面状の基部15dの短辺と平行になるように一定間隔で配置されている。これら

の突出部 1 6 d は、略平面状の基部 1 5 d を介して物理的に連続して連なっている。隣り合う突出部 1 6 d の間の空間が空気の流通する空間となる。

【 0 0 6 3 】

第三実施形態では、スペーサ 1 1 d を、ポリカーボネートを用いて押出成形することにより製造している。すなわち、加熱流動化したポリカーボネートを金型内に流し込んで、スペーサ 1 1 d を成形している。このように金型を用いて押出成形することができるのは、スペーサ 1 1 d はその厚さ方向に沿ってはどの部分も空間を介して他の部分と重なることがないからである。

【 0 0 6 4 】

連続レール型のスペーサ 1 1 d は、分断レール型のものに比べて重い負荷に耐えることができる。しかも、ポリカーボネートはとても丈夫な材料である。したがって、ポリカーボネートを用いて製造された連続レール型のスペーサ 1 1 d は強度的に非常に優れているという特徴がある。このため、図 1 0 に示すスペーサ 1 1 d は、敷布団等の除湿装置に用いるのに適している。

【 0 0 6 5 】

スペーサ 1 1 d の突出部 1 6 d の上には、力分散手段 2 2 d が設けられている。力分散手段 2 2 d は、人が透湿性マット 2 3 上に寝転がったときに、人から受ける力を分散させてスペーサ 1 1 d に加えるためのものである。かかる力分散手段 2 2 d はスペーサ 1 1 d と透湿性マット 2 3 との間に設けられるので、力分散手段 2 2 d としては、それらの間で水分が透過できるように透湿性に優れたものを用いる必要がある。また、第三実施形態では、スペーサ 1 1 d で厚い透湿性マット 2 3 を支えることにしているので、力分散手段 2 2 d としては、強度的に優れたものを用いる必要がある。これらの点を考慮すると、力分散手段 2 2 d としては、例えば、丈夫なメッシュ状部材や、多数の小さな孔が形成されたプラスチック板を用いることが望ましい。尚、第三実施形態では、力分散手段 2 2 d は、必ずしも柔軟性を有していなくともよい。

【 0 0 6 6 】

透湿性マット 2 3 は、その上に人が寝転がるためのものであり、力分散手段 2 2 d の上に載置されている。この透湿性マット 2 3 としては、厚さ 2 mm 以上の

ものであって、柔軟性があるものが用いられる。このような透湿性マット 2 3 を用いることにより、人の寝心地感をよくすることができる。

【0 0 6 7】

ところで、一般に、人体の除湿だけでなく冷却をも目的とする除湿装置にあっては、透湿性マットとしては、できる限り、厚さが薄く、熱抵抗が小さいものを用いることが望ましい。人体からの熱が除湿装置用風路内に容易に移動できるようにするためである。これに対し、除湿だけを目的とする除湿装置にあっては、冷却を考慮する必要がないので、透湿性マットとして、熱抵抗が大きいもの、すなわち断熱性を有するものを用いることが望ましい。このため、第三実施形態では、透湿性マット 2 3 として、断熱性を有するものを用いる。透湿性マット 2 3 の断熱性は、大体、その透湿性マット 2 3 が含有する空気の量によって決まる。

【0 0 6 8】

いま、透湿性マット 2 3 の空気含有量として、人が透湿性マット 2 3 のに乗って透湿性マット 2 3 に圧力を加えたときに、スペーサ 1 1 d の厚さ（高さ）方向に略直交する平面における面積 1 cm^2 当たりの量を考える。透湿性マット 2 3 の空気含有量が当該面積 1 cm^2 当たり少なくとも 0.05 cc であれば、透湿性マット 2 3 は十分な断熱性を有していると考えられる。特に、透湿性マット 2 3 の空気含有量が当該面積 1 cm^2 当たり 0.1 cc であれば、透湿性マット 2 3 はほぼ完璧な断熱性を有していると言える。ここで、透湿性マット 2 3 の空気含有量が当該面積 1 cm^2 当たり 0.1 cc であるということは、厚さ 1 mm の空気層で断熱されているのに略等しい。

【0 0 6 9】

尚、スペーサ 1 1 d と透湿性マット 2 3 との間には、上記の第一実施形態のように、透湿性シートを設けるようにしてもよい。

【0 0 7 0】

接続流通路 4 1 は、除湿装置用風路 1 0 d と連結された空間であって、図 9（a）において除湿装置用風路 1 0 d の左側に設けられている。接続流通路 4 1 の下端部には、DC ファン 4 4 が取り付けられている。この DC ファン 4 4 の取付部の開口部が、外部の空気を接続流通路 4 1 内に取り込むための空気入口部 4 2

となる。D C ファン 4 4 は、除湿装置用風路 1 0 d 及び接続流通路 4 1 の内部に空気の流れを強制的に生じさせるものである。D C ファン 4 4 が駆動すると、外部の空気は空気入口部 4 2 から接続流通路 4 1 内に流入し、接続流通路 4 1 を通って除湿装置用風路 1 0 d に達する。そして、その空気は空気出口部 4 3 から外部に送出される。

【 0 0 7 1 】

D C ファン 4 4 には、コード 6 2 を介してコントロール部 5 0 が接続されている。このコントロール部 5 0 は、メインスイッチ 5 1 と、風量調整用つまみ 5 3 と、タイマー 5 4 とを有する。メインスイッチ 5 1、風量調整用つまみ 5 3 及びタイマーは 5 4、第二実施形態のものと同様である。また、プラグ 6 1 は、商用電源に接続するためのものである。

【 0 0 7 2 】

除湿敷布団を使用する場合、メインスイッチ 5 1 がオンにされると、D C ファン 4 4 は、空気入口部 4 2 から外部の空気を吸い込む方向に回転する。この吸い込まれた空気は、接続流通路 4 1 の内部を流れた後、除湿装置用風路 1 0 d に入る。そして、その空気は、寝ている人の右側から左側へ向かって流れ、空気出口部 4 3 から外部に排出される。

【 0 0 7 3 】

人が透湿性マット 2 3 の上に横たわり寝ていると、人体から汗等の水分が発散される。そして、かかる水分により透湿性マット 2 3 は湿気を帯びてくる。この湿気は除湿装置用風路 1 0 d 内に透過し、除湿装置用風路 1 0 d 内を流通する空気によって外部に運び出すことができる。このため、透湿性マット 2 3 の湿気を除去することができ、したがって、人体から発散される汗により体が蒸れることはなく、寝ている人は快適に過ごすことができる。また、かかる除湿敷布団は、人が病床に就いている場合など、いわゆる万年床となる敷布団に適用するのに好適である。これにより、人の体が蒸れることがないので、床ずれが生じるのを防止することができる。

【 0 0 7 4 】

尚、例えば、除湿装置用風路 1 0 d に柔軟性を持たせるために、スパーサ 1 1

dの基部15dの下にクッション材を設けるようにしてもよい。

【0075】

第三実施形態の除湿装置用風路では、スペーサとして、略平面状の基部と、基板上に互いに平行になるように形成された複数のレール状の突出部とを有し、押出成形することにより製造されたものを用いている。このため、かかる除湿装置用風路は、重い荷重に耐えることができる。したがって、第三実施形態の除湿装置用風路は、特に、敷布団等の除湿装置に用いるのに適している。また、この除湿装置用風路は量産性に優れている。

【0076】

また、第三実施形態では、透湿性マットとして、その空気含有量がスペーサの厚さ方向に直交する平面における面積 1 cm^2 当たり少なくとも 0.05 cc であるものを用いているので、この透湿性マットは断熱性に優れている。したがって、かかる透湿性マットを有する除湿装置用風路は、除湿のみを目的とする除湿装置に用いるのに好適である。

【0077】

尚、本発明は、上記の各実施形態に限定されるものではなく、その要旨の範囲内において種々の変形・組合せが可能である。

【0078】

上記の各実施形態では、本発明の除湿装置用風路を、除湿座布団、除湿マット、除湿敷布団に適用した場合について説明したが、これら以外に、例えば、椅子の着座部に当該風路を設けた除湿椅子、服地部の裏面に当該風路を設けた除湿衣服、靴底に当該風路を設けた除湿靴、枕に当該風路を設けた除湿枕等に適用することもできる。

【0079】

ここで、一例として除湿衣服について説明する。かかる除湿衣服では、除湿装置用風路は、服地部の裏面に取り付けられる。この除湿装置用風路は、人体又は下着と服地部との間に空気が体表に略平行に流通する空間を確保するための略扁平状のスペーサとを備えている。かかる除湿衣服では、人体の表面から除湿装置用風路内に入り込んだ湿気を、その風路内を流通する空気によって運び出すこと

により、着用者を除湿することができる。

【0080】

また、上記の各実施形態において、スペーサの耐圧強度は、当該除湿装置用風路が適用される除湿装置の使用目的等により決められる。例えば、当該除湿装置用風路が敷布団に適用される場合には、人の重さに耐えられるようなスペーサを用いる。また、当該除湿装置用風路が衣服に適用される場合には、スペーサには大きな負荷がかからないので、小さな力に耐えられるスペーサを用いれば十分である。このため、除湿衣服の場合、スペーサについては、耐圧強度よりも軽量化が重視されることになる。具体的には、除湿衣服に適用されるスペーサとしては、図5、図7又は図8に示すものが用いるのが好ましい。

【0081】

尚、除湿装置用風路を除湿衣服に適用する場合には、スペーサとして、特に図11に示すものを用いることが望ましい。図11(a)は除湿衣服用の風路に用いられるスペーサの概略平面図、図11(b)はそのスペーサの概略側面図である。

【0082】

図11に示すスペーサ11eは、図8に示すスペーサと略同じ構造を有しており、略平面状の基部15eと、複数の突出部16eとを有する。ここで、各突出部16eは、略半円形状に形成されている。このスペーサ11eは、メッシュ状部材を用いて成形することにより製造される。

【0083】

スペーサ11eの材料であるメッシュ状部材としては布が用いられる。そして、突出部16eに相当する布の部分にはプラスチックを含浸させている。このスペーサ11eを製造するには、まず、メッシュ状の布を所定の型に入れる。そして、突出部に対応する型の部分だけにプラスチックを流し込むことにより、スペーサ11eを製造することができる。このように、かかるスペーサ11eは基部15eが布でできており、柔軟性が特に優れている。

【0084】

尚、上記の図11に示すスペーサでは、複数の突出部を基部の一方の面の側に

のみ突出させた場合について説明したが、複数の突出部を基部の両方の面の側に突出させるようにしてもよい。

【0085】

上記の各実施形態では、本発明の除湿装置用風路を、人体から出る湿気を除去する除湿装置に適用した場合について説明したが、人間以外の動物から出る湿気を除去する除湿装置や、植物から出る湿気を除去する除湿装置に適用することもできる。

【0086】

【発明の効果】

以上説明したように本発明に係る除湿装置用風路では、スペーサとして、略平面状の基部と複数の突出部とを有するものを用いることにより、十分な量の空気をスペーサ内に流すことができる。このため、かかる除湿装置用風路を除湿座布団、除湿マット、除湿座布団、除湿衣服等に適用した場合に、十分な除湿効果を得ることができる。また、スペーサを成形法等により容易に製造することができるので、本発明の除湿装置用風路は量産性に優れている。

【図面の簡単な説明】

【図1】

(a) は本発明の第一実施形態に係る除湿装置用風路が適用された除湿装置である除湿座布団の概略平面図、(b) はその除湿座布団のA-A矢視方向概略断面図である。

【図2】

(a) は第一実施形態に係る除湿装置用風路に用いられるスペーサの概略平面図、(b) はそのスペーサの概略側面図、(c) はそのスペーサのB-B矢視方向概略断面図である。

【図3】

そのスペーサの外形を説明するための図である。

【図4】

(a) は本発明の第二実施形態に係る除湿装置用風路が適用された除湿装置である除湿マットの概略平面図、(b) はその除湿マットのC-C矢視方向概略断

面図である。

【図 5】

第二実施形態に係る除湿装置用風路に用いられるスペーサの例を示す図である。

。

【図 6】

第二実施形態に係る除湿装置用風路に用いられる透湿性シート及び力分散手段の一例を示す図である。

【図 7】

第二実施形態に係る除湿装置用風路に用いられる他のスペーサを説明するための図である。

【図 8】

(a) は第二実施形態に係る除湿装置用風路に用いられる他のスペーサの概略平面図、(b) はそのスペーサの概略側面図である。

【図 9】

(a) は本発明の第三実施形態に係る除湿装置用風路が適用された除湿装置である除湿敷布団の概略平面図、(b) はその除湿敷布団の D-D 矢視方向概略断面図である。

【図 10】

(a) は第三実施形態に係る除湿装置用風路に用いられるスペーサの概略平面図、(b) はそのスペーサの概略側面図である。

【図 11】

(a) は除湿衣服用の風路に用いられるスペーサの概略平面図、(b) はそのスペーサの概略側面図である。

【符号の説明】

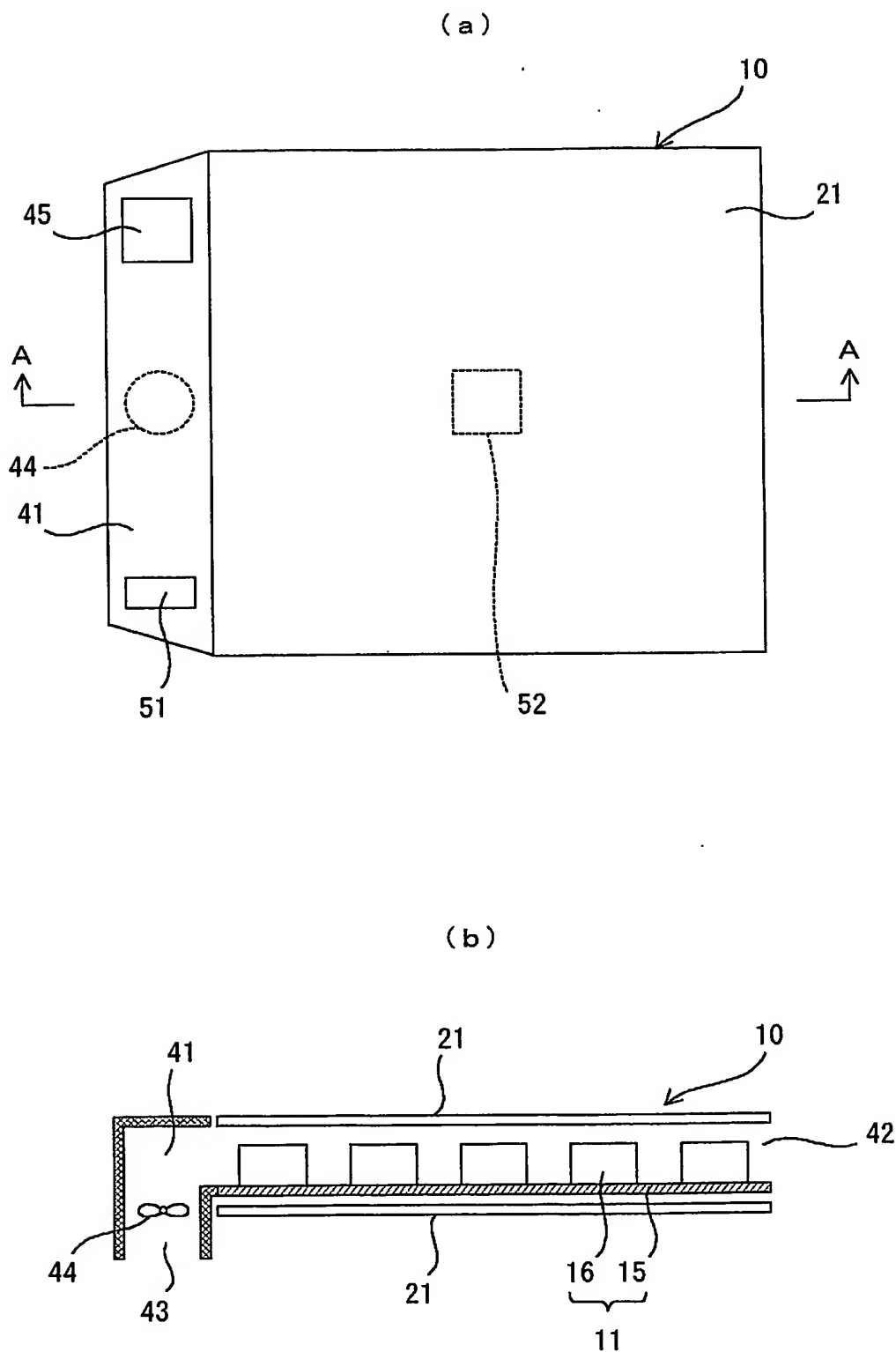
10, 10a, 10d	除湿装置用風路
11, 11a, 11b, 11c, 11d, 11e	スペーサ
15, 15a, 15b, 15c, 15d, 15e	基部
16, 16a, 16b, 16c, 16d, 16e	突出部
21	透湿性シート

- 2 2, 2 2 d 力分散手段
- 2 3 透湿性マット
- 4 1 接続流通路
- 4 2 空気入口部
- 4 3 空気出口部
- 4 4 D C ファン
- 4 5 電池
- 5 0 コントロール部
- 5 1 メインスイッチ
- 5 2 圧力スイッチ
- 5 3 風量調整用つまみ
- 5 4 タイマー
- 6 1 プラグ
- 6 2 コード

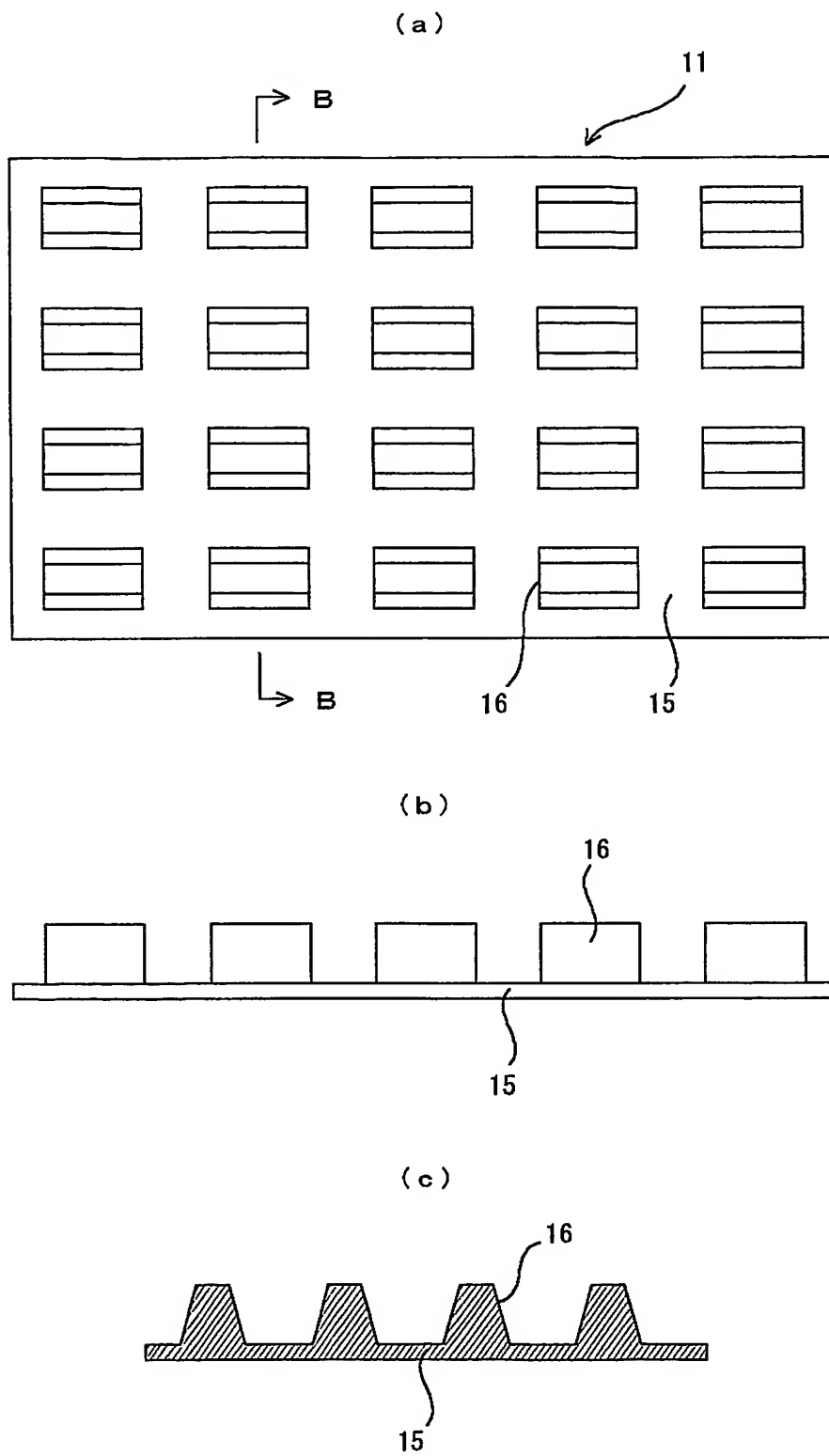
【書類名】

図面

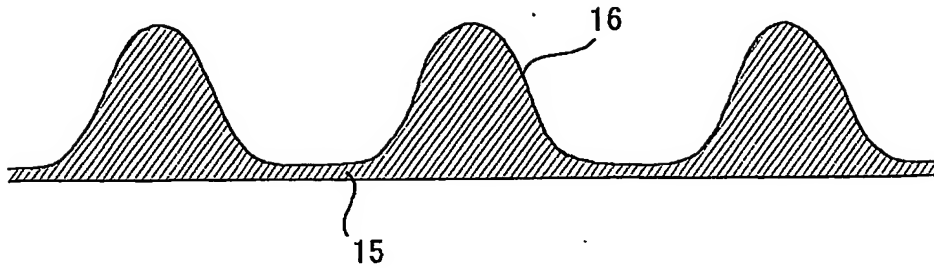
【図 1】



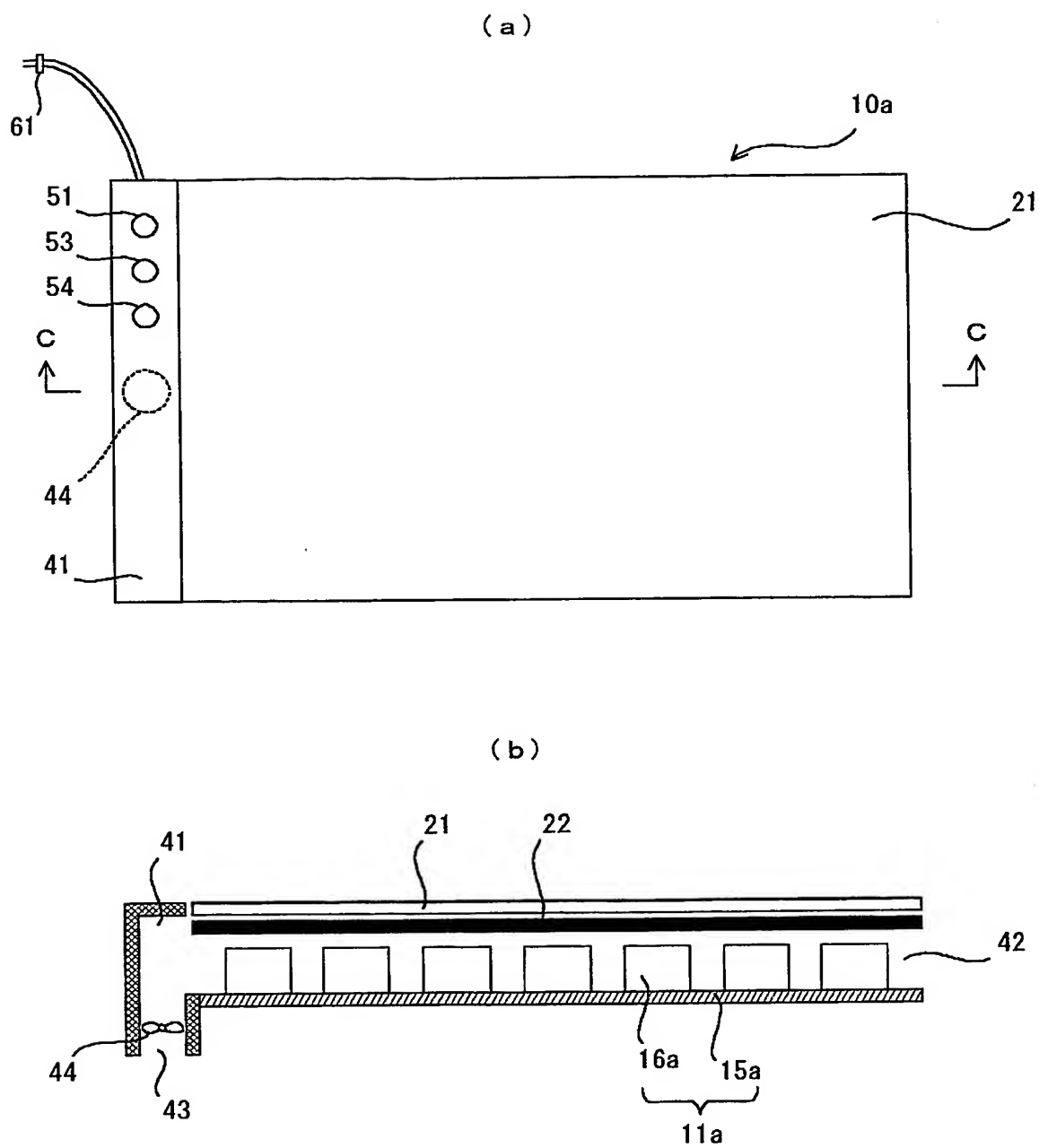
【図2】



【図 3】

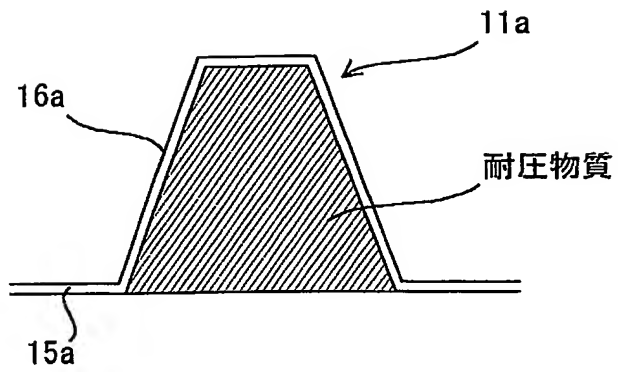


【図 4】

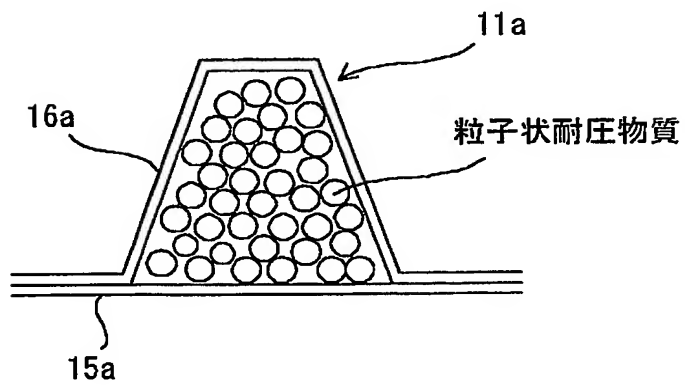


【図 5】

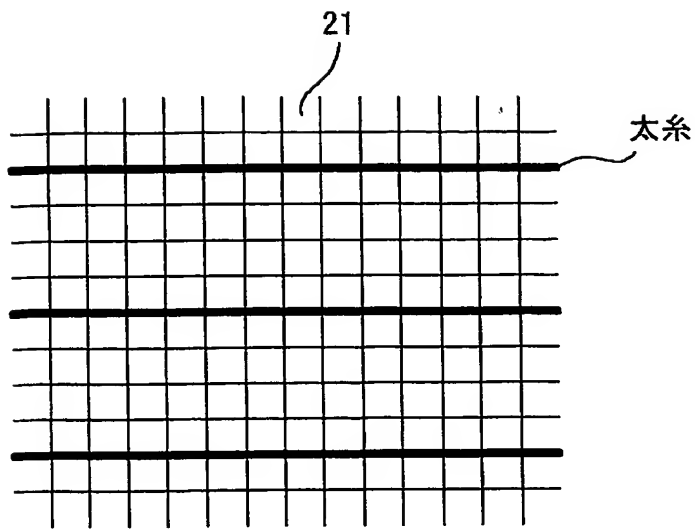
(a)



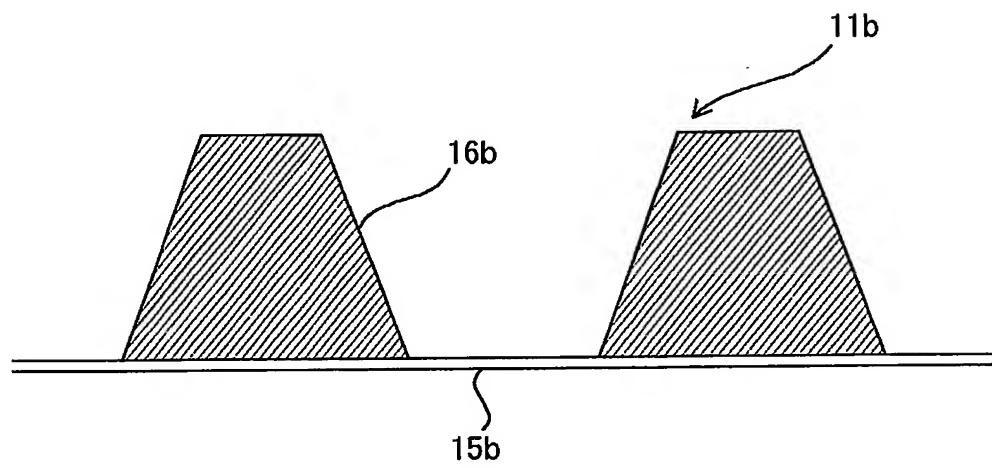
(b)



【図 6】

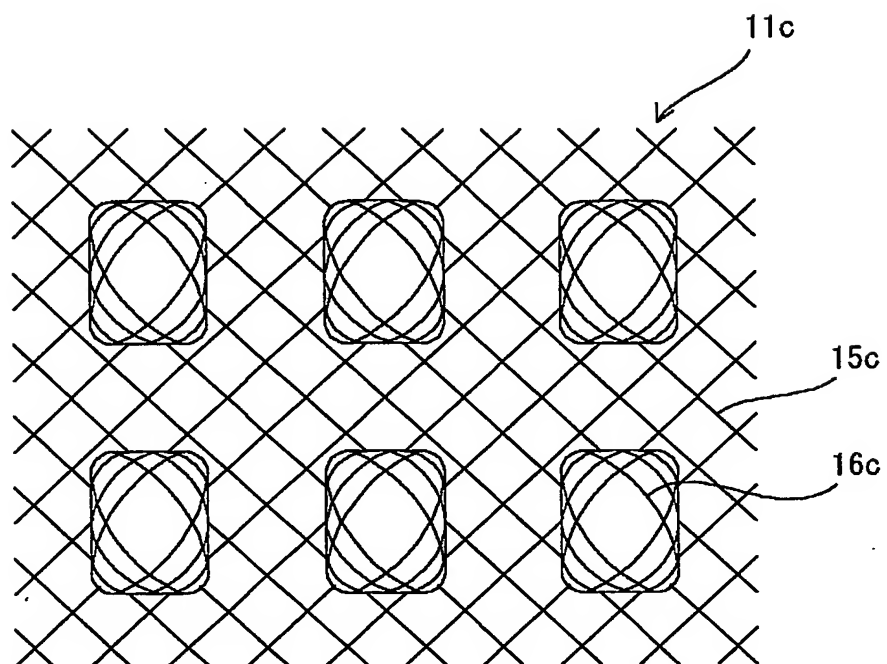


【図 7】

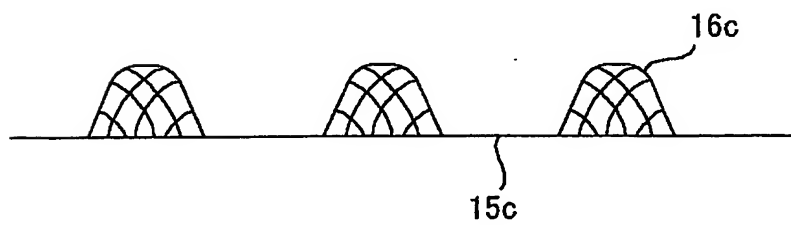


【図 8】

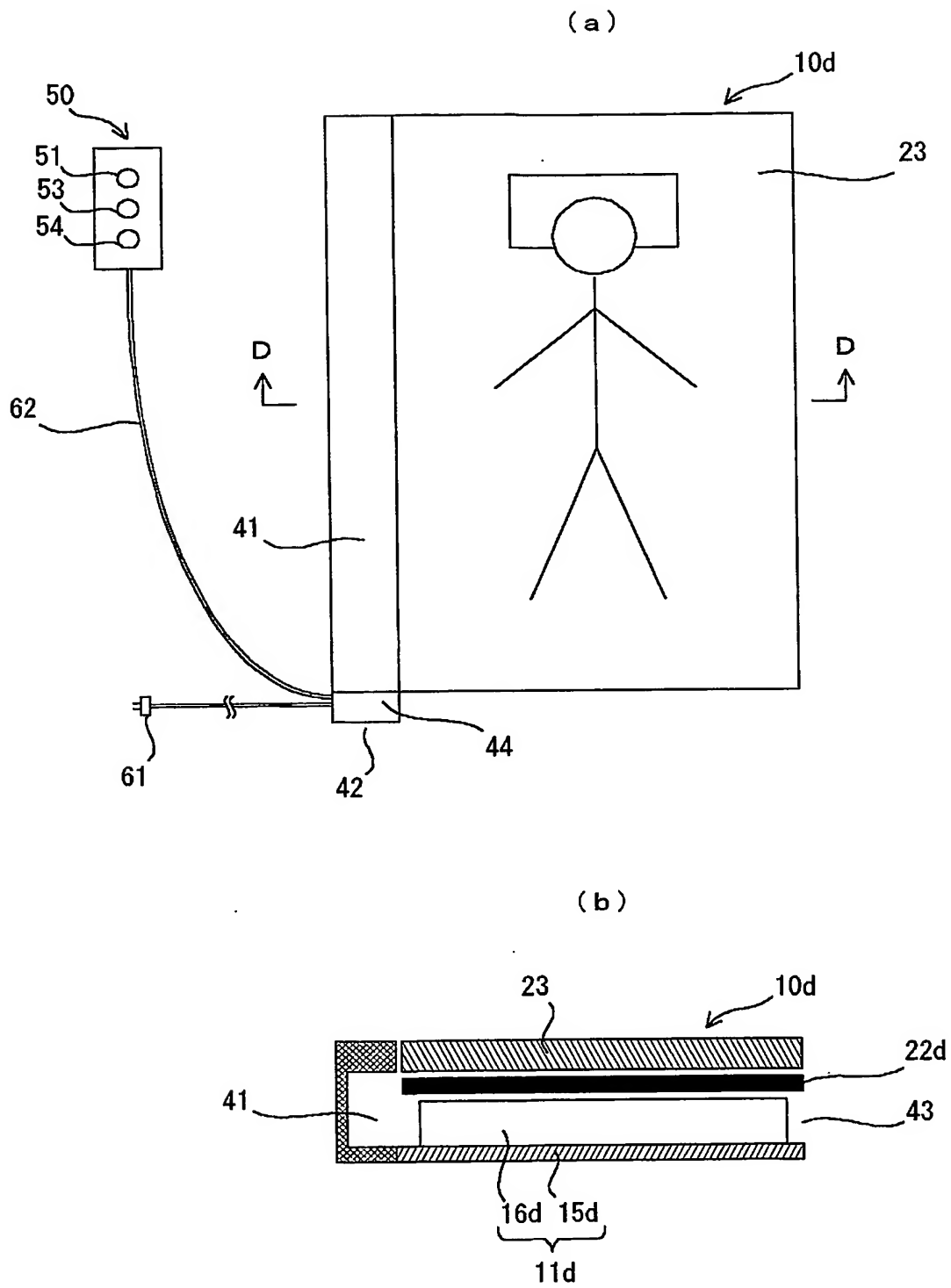
(a)



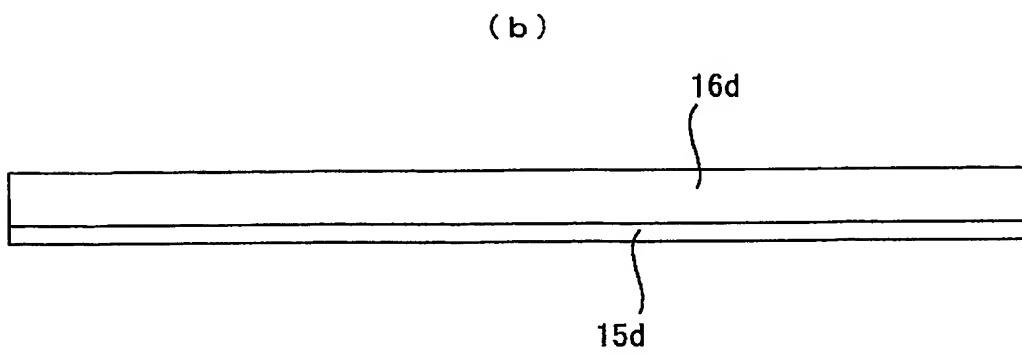
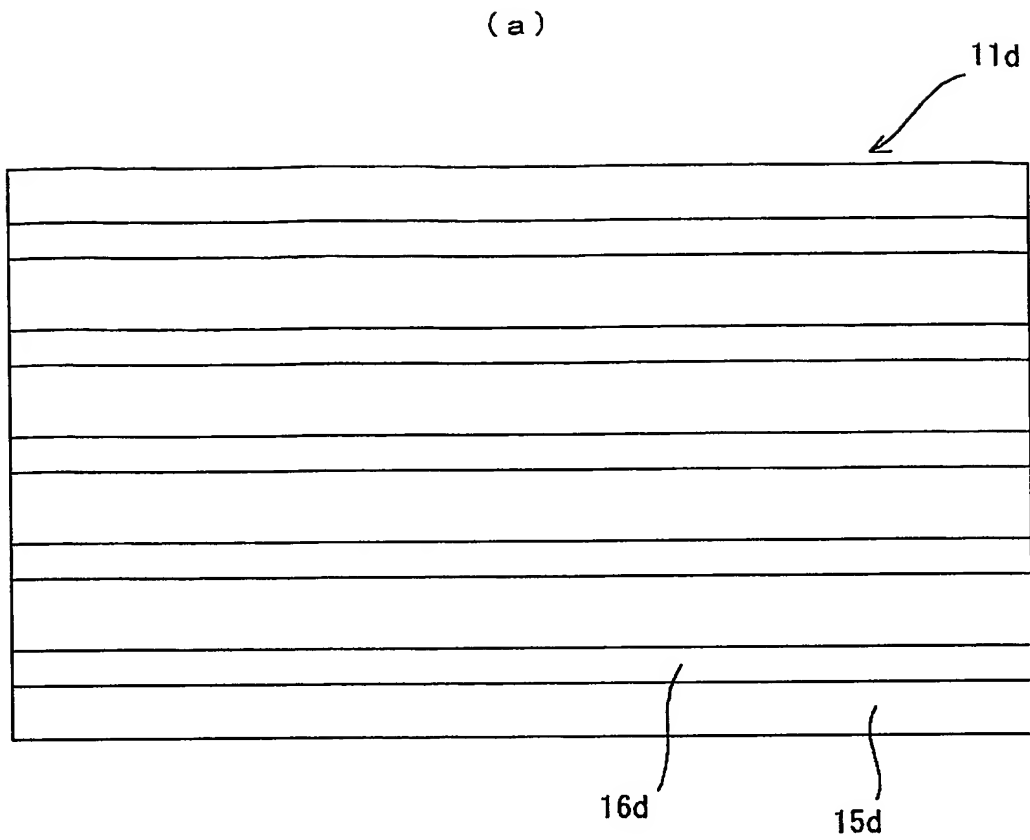
(b)



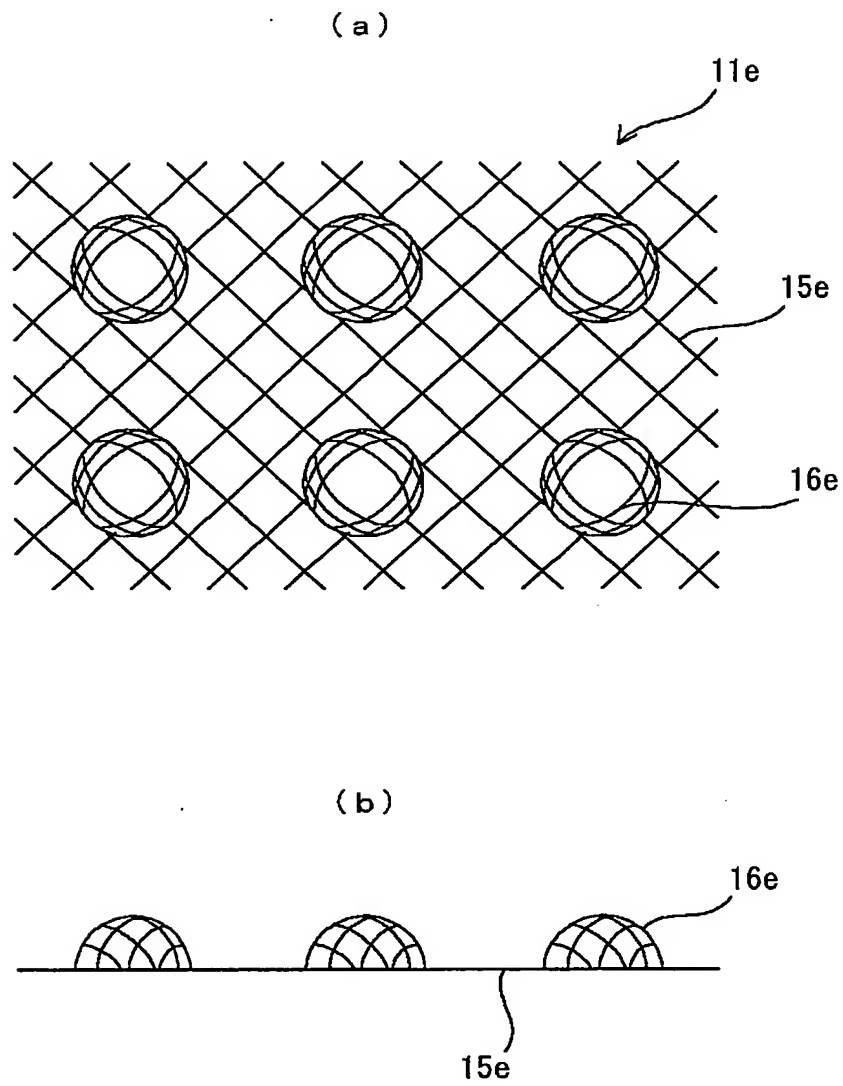
【図 9】



【図 10】



【図 11】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 十分な除湿効果を得ることができると共に量産性に優れた除湿装置用風路を提供する。

【解決手段】 除湿装置用風路 10 は、人体等の表面近傍に外部の空気を流通させることにより湿気を除去する除湿装置に用いられるものであり、略扁平状のスペーサ 11 と、透湿性シート 21 とを備える。スペーサ 11 は、透湿性シート 21 を支えると共に空気が流通する空間を確保するためのものであり、略平面状の基部 15 と、複数の細長い突出部 16 とを有する。各突出部 16 は、透湿性シート 21 に対向する面の面積が大きくとも基部 15 に接する面の面積の 50% であるように形成される。スペーサ 11 の材料としては、発泡プラスチックが用いられる。スペーサ 11 は、発泡プラスチックをカッティングすることにより又は発泡プラスチックを用いて成形することにより製造される。

【選択図】 図 1

認定・付加情報

特許出願の番号	特願 2002-228234
受付番号	50201163058
書類名	特許願
担当官	第四担当上席 0093
作成日	平成14年 8月 7日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成14年 8月 6日
-------	-------------

次頁無

特願 2002-228234

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[592171005]

1. 変更年月日

1992年 9月14日

[変更理由]

新規登録

住 所

埼玉県浦和市鹿手袋6丁目19番6号

氏 名

株式会社セフト研究所

2. 変更年月日

2003年 5月22日

[変更理由]

住所変更

住 所

埼玉県さいたま市南区鹿手袋6丁目19番6号

氏 名

株式会社セフト研究所